



--令和3年10月3日(日)--

小動物とのふれあいで

笑顔がいっぱい！

栄東地区のランドマークであるひのまる公園が、1日移動動物園に変身しました。移動動物園は、新型コロナ禍の中、何とか子どもたちを笑顔にしたいと、栄東地区青少年育成委員会が主催し、栄東連合町内会や青パト隊、交通安全指導員、交通安全母の会など地区交通関係団体が協力して実施したものです。

当日は、晴天に恵まれ、ウサギやヤギ、ミーアキャット、リクガメ、リス、ニシキヘビなど十数種類の動物たちが展示され、一部は直接触れることもでき、子どもたちは小動物たちとの触れ合いのひとときを楽しんでいました。アヒルやウサギには、エサやりができ、元気にエサを

頬張る動物たちの姿に子どもたちの歓声があがっていました。当日の一番人気は、何といても大きなヘビを肩にのせての記念撮影です。怖そうな大蛇をものともせず、首に巻いてカメラに向かってポーズをとりながら、記念撮影していました。

緊急事態宣言が解除されたとは言え、油断はできません。事前の検温やテントごとの手指消毒はもとより動物を展示する会場はしっかり区画し、人数と時間を制限し総入れ替え制にするなど、感染予防を徹底していました。当日、保護者を含めて645名の来場があり、コロナ渦で我慢続きの子どもたちでしたが、ひのまる公園に1日登場した動物園に無邪気な笑顔が溢れていました。

会いに来てくれてありがとう！



▼夢中で動物たちと触れ合う子どもたち



--令和3年10月14日(木)--

たまねぎに交通安全を託し、 交通安全キャンペーン

栄東地区の秋の風物詩「交通安全たまねぎキャンペーン」が地下鉄栄町駅交差点で実施されました。栄東連合町内会や単位町内会の役員、栄東地区の交通安全母の会や交通安全協会、交通安全指導員など約50名が参加しました。

このキャンペーンは、道行くドライバーや歩行者の皆さんに交通安全を呼びかけながらたまねぎを配布しているものです。昭和61年、当時の連合町内会交通部長であった氏家謹一さんが丹精込めて育てたたまねぎ2,000個を寄付したことから始まり、今年もたまねぎの寄贈を受け、36回目の開催となりました。

当日の午前中に、連合町内会役員の手で袋詰め作業が行われ、午後2時から配布を開始した約600袋はあっという間に底を尽きました。



続けて日の丸会館で行われた交通安全教室では、札幌方面東警察署 交通第一課長 早坂大介様による講話が行われ、参加した約30名の参加者に交通安全の心得について訴えました。

これから積雪や凍結路面でのスリップ事故が多発する季節がやってきます。事故に遭わない、起こさないように、引き続きルールを守って交通安全を心がけましょう。

--令和3年10月15日(金)--

バスツアーで秋の実りを満喫。



栄東連合町内会女性部(村木紀子・女性部長)主催の「女性部研修会」が開催され、連合町内会女性部・単位町内会女性部長の皆さんが参加されました。この研修会は、日頃から町内会活動を支えている女性部長同士が親睦を深め、英気を養うと共に健康づくりにも繋げるという目

的で開催されたものです。当日は感染予防対策を行い、各町内会から22名が参加しました。

まずは「旧下ヨイチ運上屋」を見学しました。ここは、国の重要文化財で松前藩士から交易を請け負った商人が、経営の拠点としていた建物です。見事に区切られた板の間や座敷、巨大な神棚や酒部屋などの説明を興味深く聞いていました。続いて訪れたのは、「ニトリ観光果樹園」です。この時期に収穫できるりんごのみずみずしさと、ぶどうの甘さに舌鼓を打ちながら楽しく交流を深めました。次に昼食のため訪れたのは、仁木町にある「きのこ王国」です。キノコ汁やマイタケの天ぷらなど秋の味覚を楽しんでいました。

コロナ疲れを忘れ、車窓から色づく秋の装いを楽しみながら、女性部長同士の交流を深められたことで、参加者にとって思い出に残る1日となったことでしょう。